

教育支援センター主催「学び続ける教員」をテーマとする特別講演および
これからの算数・数学教育を考える会の報告

10月17日、教育支援センター主催「学び続ける教員」をテーマとする特別講演が開催されました。講師に京都大学の松下佳代先生をお迎えして、「なぜ今、アクティブ・ラーニングなのか？ーディープ・アクティブラーニングのすすめー」の題目のもと、学校現場に導入されようとしているアクティブ・ラーニングの理論的背景や、教育的効果と留意すべき点などについてお話をうかがうことができました。質疑応答では、「アクティブ・ラーニングを実施した際、その評価はどのようにすべきか？」や、「将来教師になる際、学生時代にどんなことを学んでおけばよいか？」など、来るべく学校現場の未来の姿に対するイメージの共有をはかるべく、活発な議論がなされました。当日は、140名超の参加者があり、アクティブ・ラーニングに対する意識の高さを実感する実りある講演会となりました。

引き続き、「これからの算数・数学教育を考える会」を実施しました。こちらは、京都教育大学での算数・数学教育に関する意欲的な取組を学生たちが発表し、松下佳代氏には指定討論者としてコメントをいただきました。まもなく始まる学習指導要領改訂による新しい算数・数学教育のあり方について、約30名の参加者とともに考える機会になりました。





